

なかはざま
中狭間遺跡 (本発掘調査B)

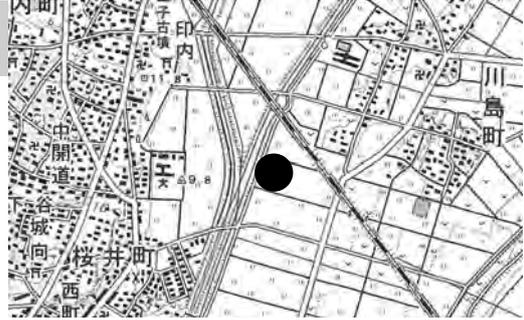
所在地 安城市桜井町・川中町地内
(北緯34度55分25秒 東経137度06分00秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和6年10月

調査面積 56㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝



調査地点 (1/2.5万「安城」)

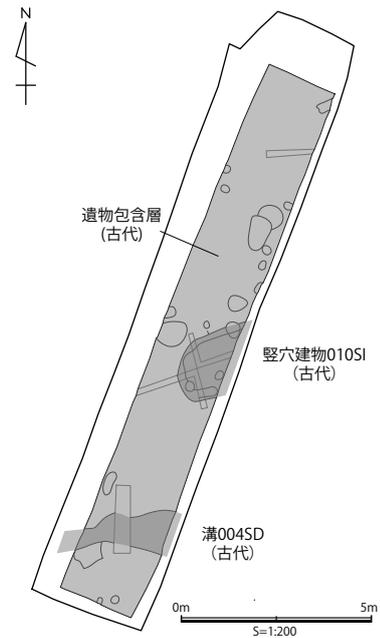
調査の経過 調査は、愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。当遺跡は令和2年度から調査を開始し、今年度が第4次の調査となる。東にはやや間隔を開けて中狭間遺跡2022年度調査区が位置する。今年度調査面積は56㎡である。

立地と環境 遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、遺跡群の北群に位置する。当遺跡内では、今年度調査対象地の南方で方形周溝墓および土器棺墓から構成される弥生時代中期～後期の墓域が確認されている。

調査の概要 調査では、おおよそ全面にわたって土師器、須恵器、灰釉陶器が含まれる遺物包含層が検出され、その下層では土坑群のほか、溝1条、竪穴建物跡1棟が確認された。溝からは須恵器甕類が出土した。

竪穴建物跡 竪穴建物010SIは、短軸長約1.6m、長軸長1.5m以上の楕円形プランを持つ。周溝は幅約0.2～0.3mで、南辺の一部で途切れる。柱穴は確認できない。遺構埋土から土師器片が出土しており、古墳時代から古代にかけての遺構と推定される。

まとめ 今年度調査区における、竪穴建物と溝がまばらに展開する様相は、南方に存在する弥生時代の墓域とは全く異なり、東側に位置する22E区と類似する。(河嶋優輝)



中狭間遺跡 24年度調査 主要遺構図
S=1/200



中狭間遺跡 竪穴建物 010SI 完掘状況 (南西より)



中狭間遺跡 溝 004SD 須恵器出土状況